

轟 と ど ろ

平成21年10月29日

10月号

手かまで稲刈り体験



5日(月)には、待ちに待った稲刈りを行いました。天候不順で収穫が心配されましたが、高尾さんのご協力で立派に稲が実りました。作業前に鎌の使い方を指導いただき、早速実践です。本校は、コンバインでなく竿がけによる美味しい米作りにこだわりました。この米はお正月にみんなで餅つきをするときに使います。一人一人が黙々と働いたおかげで作業は順調に進みました。

NHKの番組で子ども神楽が放映されました



午前11時45分からNHKで放送されている番組のビデオコーナーで本校の樫木子ども神楽が7日(水)の同時時間に放映されました。夏休み中の夜間練習や運動会での神楽披露について詳しく放送され、事前に連絡を受けていたこともあり子どもたちは自分の姿や友達の姿が放映されると歓声で教室が溢れました。

泉町内の3・4年生と一緒に社会科見学へ



泉町内の3・4年生は、14日(水)に泉町の同級生らと共に山都町の通潤橋・緑川ダム・そう川手延べ麺工場の見学にバスで出かけました。通潤橋や緑川ダムの果たす役割とその壮大さを学び、そう川手延べ麺工場では衛生管理の下でアイデア溢れる製品の開発の話や工程見学ができました。最後に試食もありみんな大喜びでした。

校 長 コ ラ ム

本校の子どもたちは、日ごろ少人数の限られた交友関係の中で生活しており、いろんな考えが存在する多人数学級からすれば、意見の相違・賛同の判断や協議そしてまとめなどの場が不足しがちで、他との関わりで一部に消極的な面が見られます。多人数学級では日常的に行われている自分の考えを同級生の前できちんと言う、自分と考えの違う人に対して言葉で反対意見を言ったり納得させる活動は、場数を踏むことにより充実することから、本校でのソーシャルスキル学習や泉町内の集合学習そして鏡小との交流学习に積極的参加を推進しています。このコミュニケーション力が身についていないと近い将来、人のいい本校の子どもは断る・言い返えず・理解させることができずに、いいように人に利用されたり、反論できずに傷つくことも考えられます。そうならないためには、まず自分からの挨拶が重要です。挨拶は人間関係づくりの第一歩、自分から挨拶することで友達になろうという意志表示が相手に伝わります。挨拶されて不愉快になるものはいません。挨拶から会話が生まれます。会話が進めば色々な考えに接することができ、井の中の蛙(かわず)から大海へと考えが広がり、その中で人間性も豊かになります。待つ姿勢ではなく、自分から場づくりに心がけ、自分から挨拶・自分から声かけ・自分から笑顔で周囲の人を引き込むような、そんな人づくりを本校は、目指しています。

あっという間に脱穀終了

16日(金)の6校時に脱穀を行いました。雨が降るという天気予報が出たため急遽、脱穀が早まりました。一人一人がよく働き、機械力もあって活動はあっという間に終了し、竹竿やビニルの片付けも協力して終了しました。ご褒美にご指導いただいた高尾さんの奥様から、今年も、よけまん(おやつ)までいただき、みんな大喜びでした。



研究授業を実施

毎年、子どもの学力を向上させるための研究・実践をどの学校でも取り組んでいます。21日(水)には、本校でも5・6年生の算数授業について研究会を開きました。担任の先生は、どのようにしたら楽しく・わかりやすい授業が進められるのか忌憚のない協議が進みます。



樫木天満宮まつりで神楽披露

本校区の最大の祭りは、やっぱり地域に伝わる伝統芸能「樫木神楽」の上演です。夏休み中も運動会までは週1回、その後は、火・木曜の夜間に練習を重ねました。荘厳な雰囲気の中で舞う前夜祭や大祭には地域を始め、遠くから多くの観光客が訪れました。手づくり料理やシシ鍋にビールなど無料で全員に振る舞われます。地域の一人一人がみんなで大祭を盛り上げ大盛況で終了しました。

